

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	標準的でない「的」の接尾について
Author(s)	テレサ アンジェリナ カルゲ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 30期 : 15 - 25
Issue Date	2015-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038673">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038673</a>
Right	
Relation	



# 標準的でない「的」の接尾について

テレサ・アンジェリナ・カルゲ

## 1. はじめに

私は日本語の漢字に興味を持っている。もともとは漢字にかんするレポートをしようと思ったが、先生と相談した上で、接尾辞「的」について研究することにした。これは自分の興味に合わないとは最初は思ったが、「的」という接尾辞をレポートテーマにしたからこそ、言語学を全然知らない私は、やっと言語学を勉強し始め、とてもよかったと思っている。さて、「標準的」とはなんだろうか。『新明解国語辞典第七版』によると、標準は「平均的なもの（度合）。一番普通であること、例えば、標準的な大きさ」である。つまり、標準的でない接尾辞「的」とは「普通ではない」接尾辞「的」である。接尾辞はある決まりで名詞とか動詞とかに付き、新しい言葉を作る。「的」は造語力が強い接尾辞であり、そのため、名詞だけでなく、節、文まで「～的」が付けられる。しかし、「～的」は本当に自由でどんな単語にも付けられるのだろうか？「～的」が付いたら違和感を生じる可能性もあるのではないだろうか？さらに世代により言葉のゆれもあるのだろうか？また、形の上では、どんな特徴があるのだろうか？本稿では、「的」の前の部分を品詞と語種の観点から考察する。最初「的」に関する先行研究を引用し、そこから問題提起をし、本稿の研究方法を説明しながら、調査の結果を示し、最後にまとめる。

## 2. 先行研究

遠藤（1984）と靳園元（2012）によれば、「的」は接尾辞として造語力が強く、「的」の前接する要素の種類は最初の漢字から、和語、外来語、そして語の範囲を超えた句や文まで発展していると述べた。中国人の日本語学習者の「～的」、その接尾辞の使い間違いを少なくするために、遠藤（1984）は辞書に載せられる「～的」に基づいて「語彙表」<sup>注1</sup>で「的」と結合しにくいものを考察した。結果として以下のように述べている。

「合図、読み書き、労働、学事、遊び、スポーツ、手足の動作、成功・失敗、裁判、価格・費用、産業の種類」などに分類された語で「的」と結合するものは全くみられない。

「生産物および用具」の語も「的」との派生語は作らない。（遠藤 1984 : 129）

しかしながら、「的」はスポーツに分類された語と派生語は作らないとあるが、実はインターネットで「サッカー的」という言葉を私は見つけた。それで、辞書に載せられないとしても、実際に日本人はその言葉を使い、理解しているかもしれないだろう。

さらに、遠藤（1984:136）は、「・・・名詞につけ加えて形容動詞を作るのが接尾語「的」の役割であるから、もともと形容動詞であるものに「的」をつける必要はない。」ということで、「的」は形容動詞と付きにくいことも指摘した。

しかし、辞書になくても柔軟に使える「～的」、例えばある形容動詞は「的」がつけられるかもしれない。形容動詞だけでなく、もっと広く、品詞の観点からも見てみたい。動詞とか名詞とか副詞とかだ。ここで、「辞書に載せられない」という意味は「的」がついていなければその言葉は辞書にあるものの、「的」がつくと、それは辞書に載せられないということである。若者言葉また専門用語とかを外す。日本人にアンケートを通して聞く必要があると思う。また、それらの「的」の前の部分の語種や品詞の上での特徴を探るのも目的としている。

### 3. 研究方法

最初にデータはインターネットから収集し、収集したデータは別の辞書でチェックし、さらに、チェックしたデータをもとにアンケートを作り日本人に聞き、調査した。アンケートの重要性は標準的でないかどうかを判断することである。私は外国人で、最初から「～的」を見ても、標準的か変かどうかは全然判断できない。そのため、日本人に聞いたほうが正しいと思い、さらに、年代により、意識が違う可能性があると思い、アンケートを作った。

#### 3-1. データ収集と辞書でのチェック

Google のサーチエンジンで 2014 年 10 月 23 から 2015 年 5 月 8 日まで「的」の用例を収集し、結局 505 語見つけた。「日本語逆引き辞典」（1990）と「広辞苑の電子逆引き辞典」によりチェックし、辞書に載っている単語（例えば：経済的）をデータのリストから外し、471 語になった。しかし、自分が変だと思う「的」だけをリストに入れたため、2015 年 5 月 25 日に、もう一回データ収集した。クリックしたことあるウェブサイトをもう一回チェックし、リストになかった単語をリストに入れた。2015 年 5 月 30 日収集を終了し、古いリストと合わせ、全部で 1121 語を収集した。次に、「日本語逆引き辞典」と「広辞苑の電子逆引き辞典」と「新明解国語辞典第七版」で全部をチェックした。言葉を外すルールは二つある。第一は、「～的」が辞書にある、例えば「文化的」。これは「日本語逆引き辞典」と「広辞苑の電子逆引き辞典」のチェックやり方。第二は、「～的」の前の部分が辞書に載っていない、例えば「std::list 的」。「std::list」自体は辞書にないから、「std::list 的」はリストから外した。このやり方は「新明解国語辞典第七版」でやった。ただし、複合語はそれぞれの単語に分けられ、意味があれば、リストから外さない。例えば、「構造学」は「構造」と「学」で、それぞれ意味があるから、リストから外さない。結局、619 語になった。この 619 語を語種と品詞の観点から分けた。結局漢語が 300 語、和語が 67 語、外来語が 122 語、混種語が 13 語、その他（節・文・句・名前・セット）

117 語になった。私は品詞と語種の観点から分析するので、619 語のうち「その他」を除く 502 語を考察した。品詞の観点からだと、502 の中は名詞 346 語、動名詞 120 語、動詞 4 語、形容動詞 15 語、副詞 6 語、代名詞 7 語、動名詞+接続詞 1 語、動名詞+副詞 2 語、動名詞+形容詞 1 語となる。ここで、動名詞というのは、「～する」に付けられる名詞である<sup>注2</sup>。また（動名詞+副詞）では（+）は動名詞だけでなく、副詞としても用いるという意味だ。

### 3-2. 予備調査

アンケートを作る前に 2015 年 7 月 13 日に予備調査を行った。そこで、4 人の日本人（20 代 2 人と 40 代以上 2 人）に答えてもらった。「あなたはこの言葉を見たことありますか？また聞いたことありますか」という質問をした。なぜこの質問にしたかという点も聞いたことも聞いたこともない言葉は普通、変と思われる可能性が高いからだ。意外なことに、ある言葉は 20 代の人には分かるが、40 代の人には分からないと答えた。その逆の答えも見つけた。その結果から、私は全部の単語（502 語）を 8 つのアンケートに分け、20 代以下と 40 代以上の日本人に聞くことにした。

### 3-3. アンケート

2015 年 7 月 16 日から 2015 年 7 月 30 日にかけてアンケートを配った。質問は、もっと正確に「「的」がある場合とない場合では理解度に違いがありますか？マークをお願いします」のような形にした。予備調査でただ「聞いたことありますかまた見たことありますか？」と聞いたが、その質問だと、必要な答えが得られない可能性が高い。見たことがあるまた聞いたことがあるより理解するかどうかの方がもっと重要なので、質問はその方向に変えた。アンケートは 8 部に分け、一人一人に 8 部すべてを答えてもらった。最初は 20 代以下と 40 代以上にそれぞれ 30 人（合計 60 人）に渡すつもりで、用紙もその人数分を用意した。しかし、実際に配ったのは 56 人で 34 人分の答えが返ってきた。実は 34 人以上の答えをもらったが、全部答えられない（空欄があるところ）もあったので、答えの確認ができる人（私または友達がそれが誰の答えかを覚えている人）は確認して、答えの確認ができない人の分を削除した。その結果、回答者の数は 20 代以下も 40 代以上も同じになった（それぞれ 17 人）。

#### アンケートに答えた対象者の状況：

1. 20 代以下：（17 人）
  - 男 8 人（10 代 2 人、20 代 6 人）
  - 女 9 人（10 代 1 人、20 代 8 人）
2. 40 代以上：（17 人）
  - 男 7 人（40 代 3 人、50 代 3 人、60 代 1 人）
  - 女 10 人（40 代 3 人、50 代 3 人、60 代 2 人、70 代 1 人、80 代 1 人）

以下はアンケート(1)の一部である。

### アンケート(1)

標準的でない接尾辞「的」について

インドネシアから来たテレサ・アンジェリナ・カルゲと申します。日本語日本文化研修生として一年間広島大学の国際センターで勉強しています。私の研究テーマは「標準的でない接尾辞「的」について」です。

以下の単語（左側の欄）はだいたい辞書に載せられていますが、「的」があると、辞書に載せられていないです（右側の欄）。例えば：辞書で「錯誤」と言う言葉がありますが、「錯誤的」と言う言葉は辞書にありません。

そこで「的」がある場合とない場合とで日本人の理解度が変わるかどうか知りたいです。マークのところにマーク「○=意味が通じる、△=どちらとも言えない、×=意味が通じにくい」をお願いいたします。

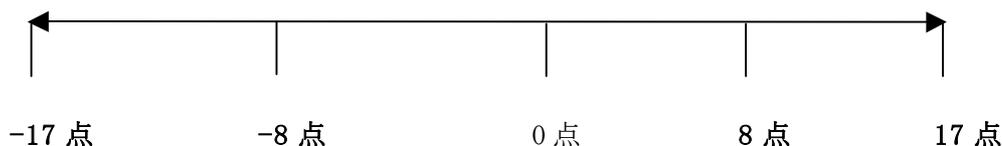
何卒ご協力お願いいたします

性別（ ）

年齢（ ）代

単語	マーク	単語	マーク
助産		助産的	
常套		常套的	
時間		時間的	
今季		今季的	
萌芽		萌芽的	
紹介		紹介的	
主導		主導的	
探索		探索的	
先鋭		先鋭的	
基礎		基礎的	
集団		集団的	
感性		感性的	

答えは○=1点、△=0点、×=-1点として、合計を計算した。計算上一つの単語は-17点から17点の間にあることになるが、実際に17点の語と-17点の語があった。



答えを三つのグループに分けた。それは「グループ 1」、「グループ 2」と「グループ 3」である。「グループ 1」は 8 点から 17 点までの答えだ。一方、「グループ 2」は-17 点から-8 点までの答えだ。そして、「グループ 3」は、「一方の世代は 0 点以上で、もう一方の世代は 0 点以下で、かつ点差は 8 点以上」と「どちらの世代も 0 点以上または 0 点以下で、点差は 8 点以上」のことだ。一方の世代の答えが 8～17 点で、もう一方の世代が-8～-17 というものはなかったのので、両世代の差を 8 点にして「グループ 3」にした。

#### 4. 結果

結果は以下のようなものである。表 2 から表 10 までのカッコ内の数字は左側は 20 代以下の答えと右側は 40 代以上の答えだ。

##### 4-1. グループ 1 (どちらの世代も点数はそれぞれ 8～17 点)

表 1

	語種	数	品詞	数
20 代以下 と 40 代以上	漢語	85	名詞	60
	外来語	5	動名詞	24
	和語	-	形容動詞	4
			副詞	1
混種語	-	動名詞+副詞	1	
合計	90 語			/502

表 1 から漢語と名詞に「的」が付きやすいことが分かった。さて、形容動詞はどうだろうか？4 語あった。それは「非合理的」と「無差別的」と「特異的」と「ビジュアル的」だ。他の言葉を少し表 2 にあげる。

表 2

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
集団的	(17) (17)	(漢、名)	無差別的	(11) (12)	(漢、形)
付加的	(11) (13)	(漢、動名詞)	システムの	(12) (10)	(外、名)
全体的	(17) (17)	(漢、副)	リーダー的	(10) (8)	(外、名)
将来的	(15) (17)	(漢、動名詞+副)	ビジュアル的	(8) (10)	(外、形)

##### 4-2. グループ 2 (どちらの世代も点数はそれぞれ-8～-17)

表 3

	語種	数	品詞	数
20 代以下 と 40 代以上	漢語	29	名詞	83
	外来語	28	動名詞	12
			動詞	4
和語	39	形容動詞	1	

			副詞	1
	混種語	7	代名詞	1
			動名詞+副詞	1
合計	103 語			/502

表 1 と表 3 を見てみよう。表 1 で、語種は漢語(85)と外来語(5)しかなかった。しかし、表 3 で、漢語(29)も外来語(28)も和語(39)も混種語(7)もあった。量的には和語が多かった。次に、漢語と外来語は同じぐらいの数だった。「マイナスの点数」に入る可能性なら全部の語種は持っている。ただ、和語の方が高い可能性持っている。品詞なら、表 1 でも表 3 でも名詞と動名詞が多かった。表 1 で名詞は 60、動名詞は 24。表 3 で、名詞は 82、動名詞は 12。マイナスの点数で名詞(83)が多かった。一方、プラスの点数で動名詞が多かった(24)。さて、形容動詞はどうだろうか？表 1 で形容動詞は 4 語、表 3 で形容動詞は形容動詞は 1 語。意外と、プラスの点数の方が多かった。表 3 に入る形容動詞は「魅力的(漢、形)」である。誰でもこれをみたら、理由が想像できると思う。そもそも、「的」が二つあるので、違和感を与える。そして、表 3 にしか入らない品詞は動詞(5)と代名詞(1)だ。動詞は「見える的」、「取り替える的」、「あむ的」、「滅ぼす的」である。2 ページの最後に示したように、動詞は 4 語しかない、つまり「的」は動詞に付きにくい。それ以外の、グループ 2 に入る単語を少し表 4 にあげる。

表 4

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
師匠的	(-8) (-13)	(漢、名)	見える的	(-16) (-17)	(和、動詞)
紹介的	(-14) (-14)	(漢、動名詞)	うんざりの	(-16) (-17)	(和、動名詞+副)
ライセンス的	(-8) (-11)	(外、名)	全く的	(-17) (-17)	(和、副)
テスト的	(-9) (-14)	(外、動名詞)	調べ物的	(-14) (-15)	(和、名)
言い訳的	(-8) (-14)	(和、動名詞)	エネルギー面的	(-12) (-10)	(混、名)
どれもの	(-15) (-17)	(和、代名詞)	レッテル貼りの	(-14) (-13)	(混、名)

表 2 と表 4 に上げた言葉は全部ではない。代表として述べただけだ。

#### 4-3. グループ 3 (56 語)

ここの表は表 2 と表 4 と違い、表 5 から表 10 までに述べたのはそのグループに入る全部の言葉である。

- a. ある側は 0 点以上で、ある側は 0 点以下、かつ点差は 8 点以上
  - a-1. 「20 代以下は 0 点以上でも 40 代以上は 0 点以下」

表 5

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
認知的	(15) (-1)	(漢、動名詞)	変化的	(4) (-9)	(漢、動名詞)
協同的	(12) (-3)	(漢、動名詞)	憑依的	(2) (-8)	(漢、動名詞)
俯瞰的	(10) (-1)	(漢、動名詞)	記号的	(5) (-4)	(漢、名)
相補的	(9) (-2)	(漢、動名詞)	角度的	(4) (-6)	(漢、名)
明示的	(8) (-2)	(漢、動名詞)	瞬時的	(6) (-4)	(漢、名)
分岐的	(8) (-5)	(漢、動名詞)	忠信的	(1) (-7)	(漢、名)
透過的	(6) (-4)	(漢、動名詞)			
合計	13 語				/502

a-2. 「20 代以下は 0 以下でも 40 代以上は 0 点以上」

表 6

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
雰囲気的	(-1) (8)	(漢、名)	サラリーマン的	(-5) (7)	(外、名)
技法的	(-3) (9)	(漢、名)	イベント的	(-5) (5)	(外、名)
地球的	(-4) (8)	(漢、名)	タイミング的	(-4) (6)	(外、名)
党派的	(-5) (3)	(漢、名)	パターンの	(-9) (1)	(外、名)
「世話女房」的	(-5) (4)	(漢、名)	ロケーション的	(-1) (7)	(外、名)
雑感的	(-7) (1)	(漢、名)	ハード的	(-13) (1)	(外、形容詞)
備忘録的	(-9) (1)	(漢、名)	トータルの	(-4) (5)	(外、動名詞 + 形容動詞)
「未来思考」的	(-2) (7)	(漢、動名詞)	仕組みの	(-7) (6)	(和、名)
報復的	(-4) (4)	(漢、動名詞)	なし崩しの	(-1) (9)	(和、名)
合計	18 語				/502

表 5 と表 6 を見てみよう。合計の違いはあった (5 語の差)。すこし細かく見よう。表 5 では、語種は漢語しかなかった。一方、表 6 では、漢語も外来語も和語もあった。ここから、20 代以下の理解度で語種の制限があることが分かった。そして、品詞の観点から、表 5 は名詞と動名詞しかなかった。一方、表 6 では、名詞も動名詞も形容詞も動名詞 + 形容詞もあった。バリエーションは表 5 より少し多かった。さらに、表 5 では、動名詞がもっとも多く (9 語)、次いでに名詞 (4 語)。表 6 では逆で、名詞がもっとも多く (14 語)、次いでに動名詞 (2 語) と形容動詞 (1 語) と動名詞 + 形容動詞 (1 語)。このパターンから、20 代以下は動名詞を理解しやすいようで、40 代以上は名詞の方が理解しやすいようだ。ここで、世代により語種と品詞から違いがあることが分かった。

b. 「どちらの世代も 0 点以上または 0 点以下で、点差は 8 点以上」

b-1. 「両世代は同じく 0 点以上」

b-1-1. 「20 代以下は高く、40 代以上はより低い」

表 7

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
簡易的	(17) (5)	(漢、形)	協働的	(13) (4)	(漢、動名詞)
電子的	(15) (5)	(漢、名)	神経科学的	(12) (2)	(漢、名)
協調的	(14) (6)	(漢、動名詞)	可逆的	(12) (1)	(漢、名)
選択的	(13) (1)	(漢、動名詞)	進化生態学的	(10) (1)	(漢、名)
合計	8 語				/502

b-1-2. 「20 代以下は低く、40 代以上はより高い」

表 8

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
理念的	(4) (14)	(漢、名)	サイズの	(3) (11)	(外、名)
基幹的	(1) (13)	(漢、名)	アートの	(1) (12)	(外、名)
価格の	(3) (11)	(漢、名)	デザインの	(2) (11)	(外、動名詞)
興業的	(0) (9)	(漢、名)			
合計	7 語				/502

少し表 7 と表 8 を見てみよう。20 代以下の点数が高ければ、語種は漢語しかなかった。一方、表 8 に示したように、40 代以上の点数が高ければ漢語と外来語が目立った。ここから 40 代以上は外来語に対し、理解度は高いようだ。品詞なら表 7 も表 8 も名詞が多かった。しかし、表 8 で動名詞は 1 語しかない一方表 7 では動名詞は 3 語にのぼった。表 7 で動名詞以外に名詞は 4 語で、この結果から見たら、20 代以下は動名詞と名詞を同じぐらい理解しているようだ。表 8 を見れば、40 代以上は名詞をもっとも理解しやすいようだ。このような結果は表 5 と表 6 と似ている。そして、動名詞で、表 7 だけに形容動詞が 1 語あった。少ないから目立たないが、それは違いがあるのを証明した。

b-2. 「両世代は同じく 0 点以下」

b-2.1 「20 代以下は高く、40 代以上はより低い」

表 9

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
宣言的	(-3) (-15)	(漢、動名詞)	省力的	(0) (-8)	(漢、動名詞)
警察的	(-3) (-13)	(漢、名)	エゴ的	(-3) (-11)	(外、名)
合計	4 語				/502

b-2.1 「20 代以下は低く、40 代以上はより高い」

表 10

言葉・点数		種類	言葉・点数		種類
萌芽的	(-14) (-4)	(漢、動名詞)	追加的	(-12) (-2)	(漢、動名詞)
創業者的	(-10) (-1)	(漢、名)	チーム的	(-8) (0)	(外、名)
重疊的	(-11) (-2)	(漢、動名詞)	お上りさんの	(-12) (-2)	(和、名)
合計	6 語				/502

表 9 と表 10 を見てみよう。表 9 で、また漢語が多いが、外来語が 1 語あった。表 10 で、外来語も和語もそれぞれ 1 語あった。それにしても、やはり漢語がもっとも多かった。品詞は表 9 も表 10 も同じで、半分は名詞で他の半分は動名詞だった。

表 5 と表 7 と表 9 を改めて見てみよう。共通点として、20 代以下なら漢語が分かりやすく、品詞なら動名詞の理解度が高かった。

次に表 6 と表 8 と表 10 を改めて見てみよう。共通点として 40 代以上なら漢語だけでなく外来語も分かりやすく、品詞なら名詞の理解度が高かった。

「グループ 1」と「グループ 2」で両世代の共通点があることが分かった。漢語も名詞も動名詞も多かった。一方、「グループ 3」から 20 代以下と 40 代以上の間で、語種の違いがあった。それは漢語と外来語に対する理解度である。「グループ 3 a」を見ると 40 代以上は外来語に対し、理解度は 20 代以下より高いようだ。表 6 で外来語が多かったからだ。「グループ 3 b」でも外来語はそう見えた。品詞なら、グループ 3 で、点数の 0 点以上も 0 点以下もだいたい動名詞と名詞が多かった。しかし、理解度なら 20 代以下は動名詞に対して高いようで、40 代以上は名詞に対して高いようだ。ここから違いがあることが分かった。

実は、アンケートで「「的」は正しい文法ではない。若者がそれを作って、その後認める人が増えるからこそ今のうようによく使われている。」という意見をもらった。しかし、全体的の結果を見ると、理解度は 40 代以上の方が高いように見える。漢語だけでなく、外来語も和語もより多いからだ。

## 5. まとめ

ここで、問題提起の答えを述べたい。

### 1) 「～的」は本当に自由でどんな単語にも付けられるのだろうか？

いいえ。実際に意味が通じにくい言葉も少なくない。全部の語種（漢語、和語、外来語、混種語）にマイナスもあったからだ（グループ 2）。

### 2) 「～的」が付いたら違和感を生じる可能性もあるのではないだろうか？

可能性はある。例えば動詞とか和語とかだ。違和感は点数から決めた。

### 3) 世代により言葉のゆれもあるのだろうか？

少しであるが、ゆれはあった。語種なら外来語で品詞なら名詞と動名詞である。

### 4) 「的」の前の部分は、語種と品詞の観点からどんな特徴があるのだろうか？

漢語と名詞がもっともよく使われているようだが、世代の見方を細かく見れば、語種なら外来語で、これに対し、40代以上の理解度は20代以下より高いようだ。品詞なら名詞と動名詞。20代以下は動名詞をよりよく理解している一方、40代以上は名詞をよりよく理解しているようだ。

そして、先行研究で、「的」は形容動詞に付きにくいことが示されたが、ここで逆だった。「グループ1」に入る形容動詞が「グループ2」より多かった。それ以外に、「～的」は漢語の名詞に付いていたら、もっと分かりやすく、他の語種と品詞はまだ違和感を強く与える語もあるので、使うのに、気を使わなければならない。特に、「動詞」。データはすべてインターネットから集めたので、誰でも自由に使えると思うが、実際の生活では違うと思う。そして、文の中なら、自然の流れをしているが、その言葉自体は1.7点から-1.7点までである。特に、グループ2のように両世代ともに-1.8点から-1.7点までの語は世代に関係なく違和感を持つと言うことができる。本稿で語種と品詞だけを分析したので、今後、別の観点から分析したい。

### <謝辞>

本研究を執筆するにあたり調査に協力して下さった30人の20代以下の日本人、30人の40代以上の日本人、そして指導教員のアドバイスとか友達と知り合いの協力でアンケートを配ることができて、心より感謝を申し上げます。

---

### 注

1. 『分類語彙表』（国立国語研究所資料集6）のことである
2. 森山（2000：28-29）による。

### 参考文献

- 遠藤織枝（1984）「接尾語「的」の意味と用法」『日本語教育』53号、125-138  
日本語教育学会  
北原保雄（1990）「日本語逆引き辞典」大修館書店  
国立国語研究所（2004）「分類語彙表—増補改訂版」大日本図書  
豊田豊子（1980）「漢字構成の「な形容詞」（形容動詞）」  
森山卓郎（2000）「ここからはじまる日本語文法」ひつじ書房

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原  
宏之 (2012) 「新明解国語辞典第七版」三省堂